

令和4年度学校経営計画表

1 学校の現況

教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師等	3	非常勤講師	5	実習教諭 実習助手	3	ALT	1	事務職員等	5	技術職員等	2	計	73
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数								
		男	女	男	女	男	女	男	女									
	普通、理数科	193	87					193	87	7								
	普通科			145	90	142	93	287	183	12								
理数科			25	16	17	22	42	38	2									

2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもとに教育活動を推進し、高い知性とたくましい心を持ち、社会に貢献する人材を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> Classiへの入力や学習用手帳の導入など、学習時間の確保と学習習慣の定着に向けた取り組みを継続しているが、まだ十分な学習時間が確保されていない。課題の出し方や授業における様々な活動の評価方法などが確立されていない。 低学年のうちに丁寧な学習を継続して行うことができる生徒が少ない。特に、1年生は入学以降、徐々に家庭学習時間が減少してしまう傾向にある。一方で、進路指導室に学習相談に来たり、各教科での添削指導を通して、意識を高く持ち、努力を継続する生徒も増えてきている。 生徒間の学力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に慣れるに従って、学習時間が少なくなっていく傾向が見られる。入学後から2年生前半までの学習時間の減少が大きい。スマートフォンの利用の仕方などを含め、生活習慣の改善など学校全体で取り組む必要がある。また、生徒たちが自ら設定した目標に向かって主体的かつ計画的に学習できるための支援も必要である。 授業への取り組みは総じてまじめで、質問をする生徒も増えてきているが、テスト結果等を見ると知識が定着しない生徒も少なからずいる。また、学んだ知識を活用して考えたり、表現したりすることを苦手とする生徒も少なくない。吸収した知識を使って考えたり、表現したりする言語活動の機会を増やし、「思考力・判断力・表現力」を評価する大学入試にも対応できる力をつけることができるよう、支援する必要がある。 スムーズに受験勉強に移行するためにも、低学年時の教科指導をいかに充実させ、基礎学力を定着させるようにする。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大現役合格は147名で6年連続で120名以上の生徒が国公立大学に合格することができた。上位校については、北海道大、東北大、東京外国語大に各1名現役で合格している。筑波大は9名、茨城県立医療大は12名、茨城大は47名の現役合格者を出した。過年度生徒では名古屋大、高知大学医学部医学科に合格者が出ている。 私大の上位校早慶上理・GMARCHなど東京都内の主要私立大学は、それぞれ8名・40名の現役合格者であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化などの影響により、大学入試の状況も刻々と変化中、高い目標を持ち続け、最後まで努力を続ける姿勢がより重要となってきた。本校は国公立大学の後期日程試験までまですっきりと大学受験に取り組む生徒が多い。今後も、あきらめずに最後まで努力を継続する気持ちを集団の中でより高め合い、変化の多い時代の大学入試を乗り越えることが出来るよう教職員が一丸となり支援する必要がある。 旧帝大クラス5名、筑波大学10名、国公立医学部医学科1名以上など国公立大学上位校の合格者を増やし、早慶上理、GMARCHなど私大上位の合格者も70名以上は出せるようにする。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしについては、校則を改正したこともあり、きちんと着こなせている。 自転車の左側通行及び自転車通行帯の通行もできつつある。一方で、自転車運転では、一部の生徒による並走運転や交通量の少ない住宅地内等の一時停止無視が見受けられる。 携帯やスマートフォンの使用マナー等に関してまだ未熟な点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と話し合いを持ち、さらに服装等についての共通理解を持つなど指導をしていくための工夫と改善が必要である。 駐輪場での自転車の施錠指導を含めた交通安全指導の継続が必要である。 スマートフォン等のルール・マナーの遵守と節度ある利用(休み時間等の利用を含む)の指導が必要である。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動について、コロナウィルス感染拡大のため組織的に対応している。 緑高祭・クラスマッチ等、学校行事において生徒主体の活動を実施している。 緑歩会は、コースの安全性を第一に考え下見確認を徹底するとともに、綿密な打合せの結果、コース決定をしている。 生徒会は、本部生徒のリーダーシップのもと活発に活動している。 Classiを利用したキャリアパスポートの実践に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習の調和のとれた学校生活を送れるよう指導することが必要である。 コロナウィルス感染予防対策を十分に取っながら、緑高祭や緑歩会の実施に向けて企画・運営を進めていく。 生徒会本部役員の立候補者の確保とリーダー育成が必要である。 Classiでポートフォリオを作成することを自己評価に活かしていく。
事務	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な予算執行に努め、条例規則等に基づいた事務処理を行っている。 教育環境の保全のため、施設設備の維持管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の経年劣化が進んでおり、施設の定期点検結果に基づく修繕計画の見直し検討が必要である。

項目	現 状 分 析	課 題
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・月45時間以上の超過勤務をしている教員数は減少しているものの今だ一定数はいる。 ・大学進学の結果や生徒の部活動の参加率は、教員の献身的な努力によるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守の観点から、いずれかの業務を諦める必要があるが、教員・生徒・保護者のコンセンサスを得るのは難しい。 ・現状の働き方に生きがいを感じている教員も多く、意識改革が必要。急激にことを進めると士気の低下の恐れもある。

4 中期的目標

教育環境の充実と、生徒一人一人の自己実現を図る。

- (1) 自ら学び、自ら考えるための「確かな学力」を育成する。
- (2) 将来を見通した進路の決定とその実現を支援する。
- (3) 生徒の主体的活動を促進し、様々な課題に挑戦できる「生きる力」を育む。
- (4) シチズンシップ教育などを通し、倫理観を培い、豊かな心を育む。
- (5) 「スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）」を核に理数教育の充実を図る。
- (6) 働き方改革の実践によるワークライフバランスの充実を、質の高い教育の提供につなげる。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
I 生徒の主体性を引き出すカリキュラムの改善と学習指導の向上	<ol style="list-style-type: none"> ①教科・領域の探究を中心にコミュニケーション能力・批判的思考力・論理的思考力の育成に努める。 ②課題解決型学習(PBL)により、正解のない問いに協働して納得解を導く機会の創出に努める。 ③ICT機器などを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びの実践に努める。 ④生徒に自学・自習の習慣や自ら問いを立てるなど主体的な学習態度を身につかせる。 ⑤新学習指導要領において、指導に生かす観点別評価を工夫し、指導と評価の一体化を進める。
II 生徒の自己実現を達成する進路指導と進学実績の向上	<ol style="list-style-type: none"> ⑥生徒に高い志を持たせる機会を積極的に設け、キャリアパスポートの効果的な活用を努める。 ⑦個別面談等により生徒の「進路設計と課題の明確化」を行い、進路意識の向上に努める。 ⑧学年・教科・学習進路指導部間での情報共有と協働により、学びに向かう力の育成と人間性の向上に努める。
III シチズンシップ教育の充実と自己指導力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ⑨各種特別活動・様々な教科、領域を融合し、生徒の自主性・自立性さらに創造性を育成する。 ⑩成人年齢引き下げを受け、市民として備えるべき資質能力の育成に努める。 ⑪校則や制服の見直しなど、生徒が自ら考える場を設定するなど、自治活動の充実に努める。
IV スーパーサイエンスハイスクール事業・国際交流事業と社会貢献活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> ⑫課題研究・探究の質的向上のため、共通理解と教科横断的な視点での組み立てに努める。 ⑬高大連携など、実施に必要な人的、物質的な体制の確保とその改善に努める。
V 働き方改革の実践とコンプライアンスの徹底	<ol style="list-style-type: none"> ⑭教材の共有化、ICTを利用した効率化を図り、業務量の軽減に努める。 ⑮部活動・学習課外・模擬試験等の業務運営時間や方針を徹底する。 ⑯生徒一人ひとりに向き合い伴走しながらも、超過勤務時間縮減に努める。 ⑰生徒・教職員が、共に成長できる風通しの良い教育環境・職場環境づくりに努める。